

2025年11月28日作成 Ver.2.0

《情報公開文書》

帯状疱疹関連痛患者における 3か月後の治療奏効因子に関する後方視的検討

研究の概要

【背景】

帯状疱疹は水痘・帯状疱疹ウイルスの再活性化で発症し、加齢や免疫低下が誘因となります。帯状疱疹に伴う痛みは「帯状疱疹関連痛（ZAP）」と総称され、急性期の痛みから、皮疹治癒後も痛みが続く「帯状疱疹後神経痛（PHN）」まで様々です。特に PHN は長期間痛みが持続し、日常生活に大きな影響を及ぼすことが知られています。ZAP に対しては薬物療法や神経ブロックを含む多様式治療が行われますが、治療反応性には個人差があり、その要因については十分に明らかではありません。そのため、治療効果に関連する因子を明らかにすることは、PHN への移行予防や治療の最適化に重要です。

【目的】

初診時の痛みが中等度以上（痛みの指標である NRS が 5 以上）の患者さんを対象に、初診から 3か月後の治療奏効（NRS 50%以上改善）の達成に関連する因子を明らかにすることを目的としています。

【意義】

治療効果に影響を与える要因が明らかとなれば、初診時点で予後を予測し、患者さんごとに最適な治療選択につなげることができます。また、慢性化リスクの高い方を早期に把握し、積極的介入を行う判断材料となるため、PHN 発症の抑制や QOL 向上に寄与することが期待されます。

【方法】

対象となる患者さんの情報を診療録より抽出します。治療方法や治療効果を調査し、治療奏効と関係する患者因子を探索します。

対象となる患者さん

2017年4月1日から2025年3月31日の間に ZAP の治療を目的に当科を受診し、当科初診時の NRS が 5 以上であった患者さん

研究に用いる情報

本研究で収集する情報は通常の診療の中で記録された既存情報のみです。

●研究に用いる情報

下記の情報を診療録より収集します。

- ・性別、年齢
- ・合併症（糖尿病、高血圧、悪性腫瘍、ステロイド／免疫抑制剤内服の有無、抗血栓薬内服の有無）
- ・帯状疱疹関連痛に関する情報
 - 発症時期、発症部位
 - 発症から受診までの日数
 - 前医での治療内容（内服薬、神経ブロック）
 - 当院での治療内容（内服薬、神経ブロック：初診～3か月後）
 - 初診時および3か月後の痛みの程度（NRS）

本研究で利用する情報等について詳しい内容をお知りになりたい方は下記の「お問い合わせ先」までご連絡ください。

情報の利用開始予定日

本研究は2026年1月8日より「研究に用いる情報」を利用する予定です。

あなたの情報をこの研究に使われたくない方は下記の「問い合わせ先」までご連絡頂ければ対象者から外します。その場合もあなたの治療等に不利益になることはありません。

ご連絡のタイミングによっては対象者から外せない場合もあります。

あらかじめご了承ください。

研究実施期間

研究機関長の許可日～ 2026年7月31日

研究実施体制

研究責任者	所属：長崎大学病院 麻酔科 氏名：吉崎 真依 住所：長崎県 長崎市 坂本1-7-1 電話：095(819)7370
情報の管理責任者	長崎大学病院 病院長

問い合わせ先

【研究の内容、情報等の利用停止の申し出について】

長崎大学病院 麻酔科 吉崎真依

〒852-8501 長崎市坂本1丁目7番1号

電話：095（819）7370 FAX 095（819）7373

【ご意見、苦情に関する相談窓口】（臨床研究・診療内容に関するものは除く）

苦情相談窓口：医療相談室 095（819）7200

受付時間：月～金 8：30～17：00（祝・祭日を除く）